

[別表]乳牛のアニマルウェルフェア評価法 2016年度

アニマルウェルフェア畜産協会

動物・施設・管理の各ベースのすべてにおいて80%以上を満たすことを認証基準とする。

A 動物ベース評価基準

(搾乳牛 TS：つなぎ 搾乳牛 FS：フリーストール 搾乳牛 FB：フリーバーン 育成：育成牛 哺乳：哺乳子牛)

評価項目	対象	評価基準	チェック方法（測定方法）
BCS	搾乳牛 TS	BCS スコア 2.0 以下の牛が 1 頭もいない	横臥している牛を除き、できる限り全頭調査する。該当牛がいた場合、その個体番号を記録する
	搾乳牛 FS		
	搾乳牛 FB		
	育成		
牛体の清潔さ	搾乳牛 TS	清潔度スコア 3 と 4 に分類された牛の割合が、 ①乳房 18%以下 ②上肢とわき腹 26%以下 である	ランダムに選んだ 30 頭以上を調査する (ただし、調査対象牛が 30 頭未満であればできる限り全頭調査)
	搾乳牛 FS	清潔度スコア 3 と 4 に分類された牛の割合が、 ①乳房 20%以下 ②上肢とわき腹 17%以下 である	
	搾乳牛 FB	清潔度スコア 3 と 4 に分類された牛の割合が、上肢とわき腹 17%以下である (ただし、調査日に放牧地またはパドックが利用できる場合は調査対象外とする)	
飛節の状態	搾乳牛 TS	飛節スコア 3 以上の牛の割合が 22%未満である	ランダムに選んだ 30 頭以上を調査する (ただし、調査対象牛が 30 頭未満であればできる限り全頭調査)
	搾乳牛 FS		
	搾乳牛 FB		
尾の折れ	搾乳牛 TS	尾を人為的に折られた牛が 1 頭もいない	全頭調査する (ただし、尾が折れている牛がいれば該当牛の番号を控え、管理者に理由を聞き、その管理者によって人為的に折られていないか確認)
	搾乳牛 FS		
	搾乳牛 FB		
蹄の状態	搾乳牛 TS	放牧を行っている場合、蹄冠部スコア 3 以上が 1 頭もいない、かつロコモーションスコア 2 以上の牛の割合が 14%	ランダムに選んだ 30 頭以上を調査する (ただし、調査対象牛が 30 頭未満であればできる限り全頭調査)

		未満である（ただし、蹄冠部スコア 3 以上やロコモーションスコア 2 以上である場合、適切な治療を行ってればよい） 放牧を行っていない場合、蹄冠部スコア 3 以上が 1 頭もない（ただし、蹄冠部スコア 3 以上である場合、適切な治療を行ってればよい）	
	搾乳牛 FS	ロコモーションスコア 2 以上の牛の割合が 14%未満である （ただし、ロコモーションスコア 2 以上である場合、適切な治療を行ってればよい）	
	搾乳牛 FB		
外傷	搾乳牛 TS	飛節を除いた、首、前膝、背中、後膝	できる限り全頭を調査する
	搾乳牛 FS	などの部位に傷、擦りむけ、タコ、出血、腫れ、化膿などの外傷（直径 2 cm 以上）が見られる牛の割合が 7%未満である	
	搾乳牛 FB		
	育成		
皮膚病	搾乳牛 TS	皮膚病を発症している牛が 1 頭もない	できる限り全頭を調査する
	搾乳牛 FS		
	搾乳牛 FB	皮膚病を発症している場合、適切な治療を行っている	
	育成		
病傷事故頭数被害率	搾乳牛 TS	地域平均値以下である	調査前年度 1 年分の共済記録を用いる ただし、何らかの理由により増加した場合は過去 3 年間の平均値を用いる
	搾乳牛 FS		
	搾乳牛 FB		
	育成		
	哺乳		
死産事故頭数被害率	搾乳牛 TS	地域平均値以下である	調査前年度 1 年分の共済記録を用いる ただし、何らかの理由により増加した場合は過去 3 年間の平均値を用いる
	搾乳牛 FS		
	搾乳牛 FB		
	育成		
	哺乳		
第 4 胃変位発生率	搾乳牛 TS	疾病発生率が成乳牛頭数の 1%以下である	調査前年度 1 年分の共済記録を用いる ただし、何らかの理由により増加した場合は過去 3 年間の平均値を用いる
	搾乳牛 FS		
	搾乳牛 FB		
除籍牛平均月齢	搾乳牛 TS	地域平均値以上である	牛群検定成績表における調査月の「除籍牛平均月齢」を用いる

	搾乳牛 FS		ただし、何らかの理由により低下した場合、調査月から過去3年間の「除籍牛平均月齢」の平均値を用いる（過去3年間とする場合、牛群検定成績表において当年、前年および前々年の同月の「除籍牛平均月齢」の平均値を算出したものを使用） 牛群検定を行っておらず検定成績表がない場合、管理者から調査月より過去1年間もしくは過去3年間に除籍した牛の月齢を聞き、その平均値を算出したものを用いる
	搾乳牛 FB		
異常行動	搾乳牛 TS	犬座、舌遊び、異物舐め、熊癖といった異常行動が1頭もない	実際に調査する
	搾乳牛 FS		
	搾乳牛 FB		
	育成		
	哺乳		
逃避・逃走反応	搾乳牛 TS	逃避反応スコアの平均値が5.3以下である	ランダムに選んだ30頭以上を調査する (ただし、調査対象牛が30頭未満であればできる限り全頭調査)
	搾乳牛 FS	逃走反応スコアの平均値が3.3以下である	
	搾乳牛 FB	ある	

B 施設ベース評価基準

(搾乳牛 TS：つなぎ 搾乳牛 FS：フリーストール 搾乳牛 FB：フリーバーン 育成：育成牛 哺乳：哺乳子牛)

評価項目	対象	評価基準	チェック方法（測定方法）
水槽の寸法・給水能力	搾乳牛 TS	①ウォーターカップの場合は2頭毎に1つ以上である ②給水能力は20/10秒以上である	貯水タンクがある場合、タンクからの配管から最も遠いウォーターカップの吐水量を計測する 貯水タンクがない場合、配管をみて、末端のウォーターカップの吐水量を計測する
	搾乳牛 FS	①20頭に1ヶ所以上の割合で、各群につき2ヶ所以上設置してある	形の異なるものを、メジャーを用いて全て計測する
	搾乳牛 FB	②不断給水されている	
	育成	①1群に1基以上で、20頭当たり1ヶ所以上設置している ②不断給水されている	群が20頭以上の場合、頭数に応じて給水器を設置しているかを調査する

暑熱対策 [THI と風速]	搾乳牛 TS	THI [T: 気温(°C) H: 相対湿度(%)] [$=0.8 \times T + 0.01 \times H \times (T - 14.3) + 46.3$] が 72 未満である	温度および湿度は、数ヵ所の牛床上において、牛体の高さで計測し最大値を用いる
	搾乳牛 FS	THI が 72 以上のとき、風速が 2m/秒以上である	風速は、数ヵ所の牛床上において牛体の高さで計測し、平均値を用いる
	搾乳牛 FB		
牛舎内照度	搾乳牛 TS	牛舎内照度が 70LUX 以上ある	乳房付近の照度を数ヵ所の牛床で計測し平均値を用いる
	搾乳牛 FS		
	搾乳牛 FB		
騒音	搾乳牛 TS	牛舎内に 80dB 以上の断続的な騒音がない	牛の頭部付近で計測し最大値を用いる
	搾乳牛 FS		
	搾乳牛 FB		
空気の質	搾乳牛 TS	牛舎内アンモニア濃度が 25ppm 未満である	牛が利用しうる通路・牛床・飼槽を計測し、最大値を用いる
	搾乳牛 FS		
	搾乳牛 FB		
	育成		
休息エリア寸法	搾乳牛 TS	1 頭当たり牛床面積が 1.8 m ² 以上ある	牛床数ヵ所を計測し、最小値を用いる (ただし一般的な牛より小型の牛の場合は考慮する) 牛が利用しうる畜舎面積を計測する
	搾乳牛 FS	1 頭当たり畜舎面積が 4.0 m ² 以上ある	
	搾乳牛 FB		
繫留方法	搾乳牛 TS	搾乳、給餌、人工授精などの一時的な使用以外、スタンションを使用していない	実際に調査する
カウトレナー	搾乳牛 TS	原則として、できる限りカウトレナーは使用しない やむを得ず使用している場合、以下の条件をすべて満たす ①変圧のできない電牧電源が使用されていない ②本体のアースが牛舎の外で埋設されている ③カウトレナーは通常立位状態の牛の背中から 5cm 以上はなれている	①②カウトレナーのアース、電源をアンケートで確認する ③カウトレナーの高さはすべて調査する (放牧期でカウトレナーを使用していない場合は、舎飼い期に調査)
人用踏み込み槽	搾乳牛 TS	清潔な消毒槽がある	実際に調査する
	搾乳牛 FS		
	搾乳牛 FB		

分娩房	搾乳牛 TS	以下の条件をすべて満たした分娩房を設置し使用している（放牧地で分娩させる場合を除く） ①1頭あたり 10㎡以上ある ②清潔で乾いた敷料で覆われている ③30頭に1ヶ所以上ある	実際に調査し、アンケートによる聞き取り調査も行う
	搾乳牛 FS		
	搾乳牛 FB		
1頭当たりの牛床数	搾乳牛 FS	1頭に1.1ストール以上である	ストール数と牛の頭数を数え、1頭あたりを計算する
	育成		
設備の不良	搾乳牛 TS	施設全体に飼養管理上問題になるような欠陥がない	牛舎内の設備をすべて調査し、外傷や隙間風を生じるような欠陥がないか確認する。
	搾乳牛 FS		
	搾乳牛 FB		
	育成		
放牧	搾乳牛 TS	搾乳牛を、疾病牛を除いて、以下の条件で全頭放牧している ①放牧可能時期には、毎日、昼夜、昼間または夜間に牛を放している（早春、悪天候、暑熱時などを除く） ②冬季にも、毎日、パドックもしくは放牧地に牛を放している（悪天候時を除く） ③放牧地もしくはパドックの1日の利用時間は4時間以上である（悪天候時を除く） ④牛舎内への出入りが自由でない場合、放牧地もしくはパドックにおいても摂食、飲水が常に可能である ⑤牛舎内への出入りが自由でない場合、全頭が入れるシェルターまたは物陰がある （ただし、一部の牧区のように日陰のない場合、パンティング行動がみられるような暑熱時には、その牧区への放牧を避けていけばよい） ⑥牛舎から放牧地、パドックへの通路およびパドックが過度にぬかるんでいない（悪天候時を除く） ⑦放牧地、パドック、通路などの牧柵に有刺鉄線を使用していない	実際に調査し、アンケートによる聞き取り調査も行う （ただし、①において、ぬかるみがあった時、管理者にその理由を確認し、悪天候により生じたものと判断できた場合は保留とし、後日再調査）
	搾乳牛 FS		
	搾乳牛 FB		

		⑧放牧地の面積が成牛1頭当たり、昼夜放牧の場合 25a 以上、夜間放牧または昼間放牧の場合 15a 以上ある	
牛体ブラシ	搾乳牛 FS	牛体ブラシを設置している ただし牛体ブラシを設置していない場合でも、管理者が全頭に対し、週1回以上ブラッシングをしていけばよいとする	実際に調査し、アンケートによる聞き取り調査も行う
	搾乳牛 FB		

C 管理ベース評価基準

(搾乳牛 TS：つなぎ 搾乳牛 FS：フリーストール 搾乳牛 FB：フリーバーン 育成：育成牛 哺乳：哺乳子牛)

評価項目	対象	評価基準	チェック方法（測定方法）
濃厚飼料給与量	搾乳牛 TS	濃厚飼料の給与量が乾物重量換算で平均採食量の50%以下である	調査月の牛群検定成績表を用いる (牛群検定を行っていない場合、管理者の記録簿から確認) 平均採食量は有機畜産物の日本農林規格を参照する
	搾乳牛 FS		
	搾乳牛 FB		
1人あたりの飼養頭数	搾乳牛 TS	酪農業従事者1人あたりの搾乳牛飼養頭数が30頭以下である	実際に調査し、アンケートによる聞き取りも行う
	搾乳牛 FS		
	搾乳牛 FB		
飼槽の清潔さ	搾乳牛 TS	①飼槽表面が平らで、破損している箇所が見られない ②飼料のこびりつき、飼料の変敗がみられない	飼槽すべてを調査する
	搾乳牛 FS		
	搾乳牛 FB		
	育成		
水槽の清潔さ	搾乳牛 TS	水槽内に ①腐敗した飼料の沈殿 ②過度のぬめり ③過度の糞便の付着 ④藻の付着 が見られない	水槽すべてを調査する
	搾乳牛 FS		
	搾乳牛 FB		
	育成		
迷走電流	搾乳牛 TS	検出された電圧が0.5V未満である	水槽と水槽周囲の床、もしくは水槽と牛床間の電圧を迷走電流計測器により測定する
	搾乳牛 FS		
哺乳子牛への初乳給与	哺乳	①生後6時間以内に確実に初乳を給与する	

		②吸乳が不可能な場合、哺乳用カテーテルなどで生後 24 時間以内に初乳を給与する ③3 日間以上、初乳もしくは全乳を給与する	アンケートによる聞き取り調査を行う
哺乳子牛への給水	哺乳	人工乳（スターター）を給餌されている子牛が、十分な量の新鮮な水を常時飲水できる	人工乳（スターター）を給与している子牛を対象にする。カーフハッチや子牛房飼育の場合は 1 頭ずつ評価し、群飼育の場合はその群に飲水できる設備があるかを調査する
離乳時期	哺乳	離乳は ①6 週齢以前に行わない ②1 日の固形飼料の採食量が 1 kg を超えるか、あるいは 3 日間続けて 0.5kg を超えること	アンケートによる聞き取り調査を行う
哺乳子牛への粗飼料給与	哺乳	2 週齢以上の子牛に良質な粗飼料を給与すること	アンケートによる聞き取り調査を行う
牛床の軟らかさ	搾乳牛 TS	①50mm 以上の敷料（わら・おがくずなど） ②マットレスに少量の敷料を敷いている ③150mm 以上の砂	敷料の少ない牛床で、敷料を横にならして、牛床の前中後で敷料の深さを計測し、その牛床の平均を出す数ヵ所の牛床の最小値を用いる
	搾乳牛 FS		
	哺乳	50mm 以上の深さがあり、よく乾燥し、カビの生えていない清潔な敷料を用いている	敷料の少ない施設（単飼・群飼ペン）で敷料の深さを測定する
牛床の滑りやすさ	搾乳牛 TS 搾乳牛 FS	長靴を牛床に押し当てて、滑らない	糞をさけ、長靴のかかと部分を押しあてて計測する
牛床の清潔さ	搾乳牛 TS 搾乳牛 FS 育成	糞がのっている牛床の割合が、全体の 25% 未満である	牛床すべてをみて、糞がのっている牛床をカウントする
断尾	搾乳牛 TS 搾乳牛 FS 搾乳牛 FB	1 頭も実施していない（導入時から断尾されている場合は除く）	全頭調査し、断尾されている牛がいれば該当牛の番号を控え、管理者に理由を聞く ただし、理由から当牧場の管理者によって人為的に断尾されていないようであれば、基準を満たすとする
除角	搾乳牛 TS 搾乳牛 FS 搾乳牛 FB	除角していない場合（遺伝的に無角となる精液を利用している場合も含む）は基準を満たすとする。 除角している場合、生後 4 週齢以内に行っている（麻酔下での実施が望ましい）	アンケートによる聞き取り調査を行う

副乳頭	搾乳牛 TS	副乳頭を除去していない場合は基準を満たすとする	アンケートによる聞き取り調査を行う
	搾乳牛 FS	副乳頭を除去している場合	
	搾乳牛 FB	①生後7日齢以内での副乳頭除去 ②それ以降は麻酔下で実施	
削蹄回数	搾乳牛 TS	①1年に2回以上削蹄を行っている（周年放牧の場合は除く）	実際に調査し、アンケートによる聞き取り調査も行う
	搾乳牛 FS	②放牧を行っている場合、年1回以上の削蹄を行っている（周年放牧の場合は除く）	
	搾乳牛 FB		
起立不可能な牛(ダウンカウ)への対応	搾乳牛 TS	①起立できない牛を移動させる場合、肉体的損傷をさらに起こすような方法を行っていない（牛体に傷がつかないような処置もいないまま、引きずり出すなど）	アンケートによる聞き取り調査を行う
	搾乳牛 FS	②給餌・給水などの世話をし、放置しない	
	搾乳牛 FB		
装着器具	搾乳牛 TS	首輪や脚輪、頭絡などを利用している場合、その器具が牛を傷つけることのないように取り付けている	できる限り全頭調査する
	搾乳牛 FS		
	搾乳牛 FB		
哺乳道具の洗浄	哺乳	①洗浄：ブラシなどで汚れ（有機成分）を落とす ②殺菌：洗剤を用いる ③保管：逆さにして保管する 重ねない	アンケートによる聞き取り調査を行う
哺乳子牛へのミルクの給与	哺乳	哺乳は全て、乳首付きバケツや哺乳ボトル、自動哺乳システムのいずれかを用いている	アンケートによる聞き取り調査を行う
哺乳子牛の社会行動	哺乳	カーフハッチ・単飼ペンが、子牛同士がお互いを確認できるような設備である	調査員が子牛の目線に立って評価する
哺乳子牛の群飼	哺乳	獣医師の指示や伝染病など特別な理由がない場合、8週齢以降の子牛が群飼されている	アンケートによる聞き取り調査を行う
哺乳子牛の繋留	哺乳	常時繋留の場合、70 cm以下の長さの短いロープで繋留していない	実際に調査する
取扱い	搾乳牛 TS	牛の誘導時にスタンガンや電撃棒などの、電気刺激を与える器具は使用しない	アンケートによる聞き取り調査を行う
	搾乳牛 FS		

	搾乳牛 FB	(牛に1頭ずつ名前をつけ名前で読んだり、牛に声かけしたりしていることが望ましい)	
死亡獣畜取扱場への搬入	搾乳牛 TS	死亡獣畜取扱場(化製場)へ牛を搬入する場合、獣医師による安楽殺を行った上で輸送している	アンケートによる聞き取り調査の上、関係書類により確認する
	搾乳牛 FS		
	搾乳牛 FB		
	育成		
	哺乳		

聞き取り調査の結果やむを得ない理由があると判断した場合には、評価保留とし協議する。

実施完了日が示された改善・改修計画がある場合には評価保留として協議し、実施完了日以降に再調査する。